

第6期第1回河内長野市民公益活動支援・協働促進懇談会 会議録

日 時：平成26年6月24日（火） 14時～16時

会 場：河内長野市役所8階 802会議室

出席委員：久、湯川、大谷、金子、佐川、芝本、下川、杉岡、曾和、土橋、永田、野田、
山崎

事務局：市民協働課：松浦、長野、杉本、山田、住田

1. 開会

① 開会、委嘱について

委嘱状交付

副市長挨拶

② 委員・職員紹介

各委員による自己紹介

事務局職員紹介

③ 本懇談会について

事前資料に基づいて事務局説明

④ 会長、副会長について

選出について事務局が腹案を提示、会長に久 隆浩 氏、副会長に湯川 まゆみ 氏
を選出

会長・副会長挨拶

2. 案件

① 「協働によるまちづくり」の推進について（平成25年度の取り組みについて）

② 市民公益活動支援センターの事業等について

③ 市民公益活動支援センターの評価方法について

④ その他

3. 閉会

① 「協働によるまちづくり」の推進について（平成25年度の取組について）

※ 本日資料1に基づき事務局説明

会 長：どうもありがとうございました。このあたりが分からないとか、もう少し知りたいというご質問でも結構ですし、今年度の事業も始まっていますが、昨年度の評価も含めて、こういう事ができたらなあとかいう提案でも結構です。いろんな意見をお願いします。

委 員：近隣市との比較というのは、されていますか。

会 長：私は隣の富田林でも同じような取り組みをしていますが、市が違ふとやり方とか状況が違ふので、同じデータで横並びで評価するのは難しいです。富田林の市民活動センターは、るーぷらぎのように一つの場所ではなくて、ネットワーク型とって、いくつかの拠点に分かれながら、ネットワークを動かしているから、動かし方が違ふます。横並びでというのは非常に難しいかなと思います。

委 員：他市と比較すると、こういう良いところがあるんだということが分かり、良いところはどんどん吸収していけるのかなと思いました。

会 長：その役割で座っているのが、私と湯川さんの2人かなと思います。湯川さんは堺全体のコーディネートをやっていますし、私もこのような活動をして、情報を提供させていただきながら、河内長野は河内長野なりの良さを引き出していきたいと思っています。

委 員：10ページのまちづくり協議会の財政支援というところで、上限40万円と書いてありますが、カッコ書きに10分の10補助と書いてあります。これを具体的に説明してください。

事務局：補助金の補助率が10分の10というのは、地域まちづくり協議会の自主財源が0円であっても、100%出させていただくという事でございます。例えば、市民公益活動支援補助金の補助率は、初動支援コースであれば、4分の3になっています。これは事業を行う時に、全体で10万円がいるという場合に、4分の3は補助金を出させていただくけれど、残りの4分の1に関しては、自主財源を準備していただかなければいけません。地域まちづくり協議会は、まずは各種団体の関係づくりを進めていただきたいというところで、100%補助で出させていただいています。

委 員：わかりました。

会 長：資料はお渡ししましたので、また読んでいただいて、何かありましたら次回にお願いします。もうすでに終了はしてしまったのですが、5ページの市民公益活動支援補助金制度は、これを差し上げる時にも公開審査会をさせていただいていますし、終わったあとは報告会もやっています。委員になられたあかつきには、ご案内もあると思います。発表を聞いていただくとより分かりやすいかなと思いますので、情報提供はこれからもさせていただきたいと思います。

それと、7ページの補助金の原資について、先ほどご意見賜った他市と比べてどうなのかというところで言いますと、このあたりも河内長野は進んでいる方で、マッチングギフトと言って、市民が50万円集めると市役所も50万円を積んで、2倍の100万円にして、基金に積み立てるという仕組みです。市民が頑張れば

頑張るほど、市役所も一緒に頑張っていくという仕組みをとっておられます。もしよろしければ、寄付もお願いしたいと思います。

会 長：それでは続きまして、2番です。この懇談会の恒例行事のようになっていますが、市民活動支援センター「るーぷらざ」が1年間どういう事業をやってきたかというのを、我々も評価に加わらせていただくようになっています。その前に、るーぷらざがどんな事業をやっておられるのかという説明を受けて、そののち今年度の評価方法について、検討させていただこうかと思っています。それでは2番の市民公益活動支援センターの事業等について説明をお願いします。

②市民公益活動支援センターの事業等について ※ 本日資料2に基づき事務局説明

会 長：ありがとうございました。ご意見ありましたらお願いします。いかがでしょうか。「るーぷらざ」という名前を応募で選ばせていただいた時には、当時、中学生だった方の提案でしたので、もうその方は20歳を超えていますね。るーぷらざを担われている市民公益活動推進委員会さんは、元々、ボランティア団体のネットワーク組織でしたので、夏休みの子どもさんたちへの体験プログラムは、他の市ではなかなか40プログラムもできませんが、河内長野市は担い手のネットワークで、これだけできるんだと思います。これも長年続けていただいておりますので、小学生時代のボランティア体験が大人のボランティア活動につながってきているんじゃないかなと思います。パラパラと利用者アンケートを見ていると、交流スペースが狭いとかありますが、これはなかなか難しいですね。るーぷらざは元々法務局で、法務局が富田林と合併した時に空いた施設を使わせていただいているので、利用する中で制約もあります。昨年度、るーぷらざが視察に行かれた箕面市のセンターは、真っ新の状態から施設を作られましたし、更には、箕面市が開発したショッピングセンターの一角を提供してくださったので、条件としてはかなり違います。一概に他市と比べてどうかと言えませんので、河内長野市は河内長野市なりに頑張っていると思います。大きなイベントをする時は、キックスを使いながら、当初からキックスと連携して立ち上がっています。例えば、会議をする時は、キックスで予約して使っていただき、るーぷらざは予約なしの打ち合わせなどに使ってもらって形で役割分担をしています。

委 員：5ページのところですが、利用者総数が23年度くらいから頭打ちになっています。また、私もるーぷらざを使わせてもらっていますが、ボランティアの団体数が122もあるというのは知らなかったです。ずっと使わせてもらっているのに知らなかったといのは、宣伝が弱いのかと思います。

会 長：先程、出てきていましたように、ガイドブックで紹介はさせてもらっています。

委員：ガイドブックそのものが、それほどPRになっていないのかなと思います。るーぷらぎも使う人は使うが、全体的には行きわたらず、一般の市民には浸透していないというふうに感じています。

委員：難しいところですね、それは。私も今日説明を聞いて、こういう事まで手を広げていただいているんだという事がやっとわかったという感じです。自分から情報を取りに行く人は、なんぼでも集まるとは思います、受身形の市民がほとんどだと思うので、受身形の人にどういうふうにPRしていくかですね。

委員：自分が何かしよう、どういふボランティアになろうかと思って、初めてガイドブックを見ます。自分に価値があるか求めていかない限り、ガイドブックのことは分からない。それが頭打ちになってくる原因かなと思います。

会長：これは、3番の話にも関わりますので、その辺りは資料を読みこなしていただいて、次回に持ち寄って話し合っていきたいと思いますが、何か原因は分かっているのでしょうか。

事務局：5ページの件で、利用者の総数がグラフ上1,000人減っている要因ですが、我々もこのデータを作る時に、いろいろ議論はしていたのですが、これといった要因は分からなかったもので、できれば要因を分析してみたいと思います。あと、活動団体の数ですが、これについて、ここ近年頭打ちになっているのも事実ですし、我々も伸び悩みの原因を分析するまでには至っていません。

こういう施設は、一つの指標として、利用者の数や登録団体の数字が評価の指標になろうかと思うのですが、そういった中で、我々としても、できれば普段使っていた方が増えれば良いなと思っているところです。なぜ減ったのか、なかなか分析しにくい部分がありますが、分析ができるようでしたら、次回の評価の時に合わせて、情報提供ができればと思います。

会長：るーぷらぎの評価用資料※の資料1で、内訳が書いてある部分を見ると、一番減っているのが「その他の利用者」、あとは増えているんですね。その他が分かれば、なぞは解けると思います。その他はどういう人か分かりますか。

委員：その他は、主には貸ブースの団体さんです。

委員：貸ブースそのものは減っていないですね。

委員：貸ブースの団体の数は減っていません。ただ、週1回来られていた団体さんが、毎週は来られなくなったり、今までは、毎日誰かが来られていた団体さんが、決まった日に来られるようになったとか、人数が増えられたので、別の場所でも集まられるようになった団体さんとかがいます。

委員：あくまで想像ですが、少子高齢化が進んでいるというのも要因の一つとして上げられるのではないのでしょうか。私の地域でも、高齢化で5回の会議を3回にしようという方向に行っています。河内長野市に限ったことでもないですが、必然的にそういう方向になってくると思います。

委員：利用されている方の年齢層は、どうですか。私は河内長野の合唱団に入れてもらって、何年かやっているんですけど、70歳後半の方が多い。そうすると、体力的に持たなくなってきた、どんどん減ってきています。若い人はなかなか入って来ていただけない。る一ぷらざは、どういう年齢層の方が利用されていますか。もしかすると、年齢層からくる難しい問題なのかもしれません。

委員：る一ぷらざにお邪魔していると思うのは、年齢的には結構お若い方がいらっしゃるかなと思います。

副会長：貸事務ブースは、ずっと入りっぱなしですか。入って2年で出ていかないとかというルールはないですか。

委員：使用料は3年目からあがります。まだブースの利用がいっぱいではないので、3年目以降の団体さんにも使っていただいています。

会長：先程の支援補助金を使っていただいて、うまく育てていただいた中にも、お若いグループもあるので、先ほどおっしゃっていただいたように、決して偏った年齢層ではないと思います。

先程の利用者総数は、また市の方でも見ていただいて、減っているのは事実ですので、これを増やす方向で頑張ってもらいたいという評価をするのか、これはやむを得ないというふうになるのか、これは次回、みなさんからご意見をいただきたいと思います。

会長：それでは、次の話題も重なってまいりますので、る一ぷらざの評価方法について、説明をお願いします。

③市民公益活動支援センターの評価方法について ※ 本日資料3に基づき事務局説明

会長：1回目からどっど資料をお渡ししてこれで次回評価という、大変な作業をお願いすることになりますが、一番分かりやすいのが、A3の縦長の評価シートです。受託者のる一ぷらざ側が評価した○や◎と、行政側が評価した○や◎があるのですが、そこがずれているところがあります。どちらが妥当な評価かというのを第三者の私たちがするというところもありますので、そこが評価をしてもらおう一つのポイントかなと思います。

あとは、先ほどからご意見を賜っていますけれども、資料を見ていただいたり、利用のご経験から評価をしていただくということで、意見を持ち寄って、最終的には1つ1つ評価をするのではなく、本日資料3の裏側のようにコメントとして評価をさせていただいております。

本日資料の3の裏側には、平成24年度の第三者評価コメントを載せていますが、いつもは三段構えと言いまして、全体としてはこうですよという評価をさせていただいて、次の文章で良い点を言わせていただいて、最後にもう少しこういうところを頑張っていたら、より良いものになるということで、お話しをするという形になっておりますので、たくさん資料をお渡ししておりますが、そんなに細かいところまで突っ込んでという必要はないと思います。分からないところがあればお願いします。

会 長：最近を受託者評価と行政評価が合ってくるようになりましたが、評価を始めた当初はずれていました。市役所の人には申し訳ないですが、る一ぷらざの人は頑張っているのもっと良い評価でもいいのでは、という話が当初の懇談会ではありました。

委 員：評価をするのに、一度も利用したことがなければ分からないのではないですか。

会 長：資料を元に考えていただければいいかなと思います。逆に、利用されていない方が、岡目八目で全体的な評価ができるかもしれません。利用してしまうとある意味バイアスがかかってしまうこともありますので、必ずしも利用して評価するのがいいのかどうかというのは、なかなか難しい話だとは思いますが。

おそらく考えていただく中で、疑問点が出てくると思いますが、その時は、事務局あるいはる一ぷらざにお問い合わせいただいて、次回に臨んでいただけたらと思います。それでは、資料をお持ち帰りいただいて、次回の宿題という形になりますが、よろしくをお願いします。用意させていただいた案件は以上ですが、ふり返ってでもいいですし、他の話でもいいです。何かありましたらお願いします。

委 員：こういう会議に初めて出席させていただいたのですが、基本的な話を教えて欲しいです。私たち委員というのは何をすればいいのですか。

会 長：様々なものに対して意見を賜る訳ですね。今回の一番のメインは、る一ぷらざがきちんと機能して動いているかどうか、平成25年度の協働の取り組みが上手くいっているかどうか。そういったことをチェックしていただいて、意見を出していただくのが、今回の役目です。あるいは、今年度はどうなるか分かりませんが、新たに市が協働に関する取り組みを考えた時に、ここに諮っていただいて、市民の意見も踏まえながら、市の事業にさせていただくという時に、意見を提出するというのもこの役目です。

- 委員：地元で公民館があり、一ふらぎまで行かなくても、公民館を利用できるので、あまり利用者が増えないのでは。
- 会長：単にミーティングスペースではないので、積極的に使っていただいて、他の地域の方とか他の団体さんとの交流のスペースとしていただきたいなと思います。
- 委員：そういった感じの交流でしたら一ふらぎでいいのですが、地域の交流でしたらどうしても近いところへ行ってしまう。
- 会長：そのあたりは、今言っていたとおりになると思います。それと、一ふらぎが、まちづくり協議会やまちづくり交流会の応援もやっけていただいているというのは、他市に比べても積極的です。他市は、地域活動と市民公益活動とに少し距離があるところが多いですが、その連携が取れているというのは、河内長野の特徴ではないかと思ひます。それは、地域団体さんも積極的に一ふらぎを活用していただいているということではないかと思ひます。今日のお顔ぶれも、地域活動で活躍されている方と市民公益活動で活躍されている方が集まって会議をしていること自体がいいことかなと思ひます。そのあたりを、堺を始め他市で活動している湯川さんはどうでしょう。
- 副会長：今言われたみたいに、自治会の方や地域団体の方、テーマ型団体の方、いろいろな団体の方が集まって会議されてきたというのにびっくりしています。堺は、NPOはNPO、ボランティアはボランティア、地域団体は地域団体と別れてしまっているところがあって、どうしても溝があります。地域は公民館を中心に活動されていますが、もうちょっと視野を広げたいとかこういう人がいないかなというときに、うまく連携できるよう、一ふらぎがあるのだと思ひます。公民館は公民館の良さがありますし、じゃある一ふらぎの強みは何なのかというところを、この場を使って、みなさんで強みを作っけていけたらと思ひます。
- 会長：私の方からの情報提供をしますと、先程から団体さんの顔がなかなか見えないというご意見をいただいたのですが、団体紹介のガイドブックは他市でも作っけておられます。八尾市の市民公益活動センターが、この前ガイドブックを作り替えられたのですが、八尾市も河内長野と同じように、小学校区単位でまちづくり協議会を作っけていこうとしています。たまたま、八尾のセンターの指定管理者であるNPO法人の副理事長さんが連合自治会長になられました。だから、その方は、地域活動と市民公益活動と両方やられている方なので、その方のアイデアもあっけて、今回のガイドブックには、小学校区単位でどういふ団体さんが拠点を構えているのかというリストが出ています。それを見れば、うちのまちづくり協議会にこの団体さんに入ってもらえれば、地域活動と市民公益活動が連携できるのではないかということが分かりやすくなっています。ちょっとした工夫ですが、お互いが知り合うきっかけにはなると思ひます。そんなアイデアもここでどんどん出

して、いただけたらと思います。

事務局：次回の日程ですが、8月11日10時から、る一ぷらざで行いますのでよろしく
お願いします。

会 長：本日資料3の中にも日程が書いてあります。これは毎年、やはり現場で評価をさ
せていただいた方が、雰囲気等よく分かるということで、る一ぷらざでさせてい
ただいております。この時には、る一ぷらざの方も来ていただいて、分からない
事は直接意見交換できる機会を設けています。

委 員：8月11日は出席できないので、先に感じた事を言わせていただきます。私は、
ボランティア団体として、る一ぷらざのみなさんにとってもお世話になっています。
る一ぷらざの事業にもほとんど参加させていただいているので、る一ぷらざの活
動によって、私たちのボランティア団体がスムーズに運営できているというこ
とを、改めて確認させていただきました。

ただ、今年からる一ぷらざの部会に入らせてもらって、やはり高齢化が進んでい
ると感じます。今まではボランティア団体が利用する場所と思っていたけど、そ
うではなく、団体みんなで盛り上げていけるような連帯感が出てきたらいいなと
思います。また、私は地元でも活動していますが、地域でる一ぷらざを知ってい
る人はわずかなので、利用している私たちももっと発信するべきだろうし、冊子
も手に取って見る方は少ないので、見た人が口コミの力で広げることも大事だと
感じました。高齢化の問題もあると思いますけれど、それはどこでもそうなので、
みんなの意識で広げていけたら、と今のところ感じています。

会 長：箕面の話に戻りますが、箕面はショッピングセンターの中にあるという話をさせ
ていただきましたが、センターの中にベビールームがあるんです。活動をしてい
ない方でも、ぶらっと入って来てもらって、活動のきっかけになればいいなとい
う雰囲気で作っています。そういう意味では、る一ぷらざも用事がある人だけが
来るのではなく、ちょっと休憩したいなとか、一緒にご飯が食べたいなとかいう
時にぶらっと来ていただいて、刺激を受けてもらえるような雰囲気を作ってい
ただけたらありがたいなと思います。

先程、公民館の話もあったのですが、キックスも公民館も、30分4人ぐらいで
ぶらっとついでという時に、予約をしてまではということになると思うので、そう
いう時にる一ぷらざでしたら予約なしに使えるので、そんな使い方してもらえ
ばと思います。せっかくの交流スペースですので、そういう雰囲気を広げていく
ことも必要かなと思いました。

会 長：それでは、重たい宿題をお渡しているようには思いますが、肩肘はらずに忌憚な
いご意見を賜りたいと思いますので、よろしくお願いします。それでは今日はこ
れで終わりたいと思います。